

令和7年度国際交流員通信1

挨拶、そしてぴえん🥹ばかり

初めまして、中国の青島市から参りました王涛（ワン タオ）です。今年の4月から下関市市役所の国際課に勤務することになりました。よろしくお願いいたします。

私の名前は中国では男の子につけられることが多いです。初対面の方には必ず「あれ？男の子だと思った」と言われるほどです。日本ではそんな悩みはありませんね。とはいえ、別の問題があります。もともと私の名前は「おうとう」と発音し、いつも「おうさん」と呼ばれていました。しかし、今回は「ワンタオ」というカタカナ表記になりました。先代の国際交流員の李さんに「お父さんと聞き間違えないためじゃないですか」と言われましたが、正直「ワンさん」は聞き慣れません。「おうさん」と呼んでほしいです。（ぴえん）

さて、どうでもいい話はひとまず置いて、これから日本に来て初めて気づいたこと、あるいは驚いたことについてお話ししたいと思います。大学では日本語専攻ですが、実際に日本で留学したことはなく、今年4月からが初めての日本生活です。では、いったいどんなことにびっくりしたのか、紹介しましょう。

衣・ジーパンはいいよ（ぴえん🥹）

国際課に勤務し始めて、ジーパンを一度履いた時に気づいたのは、「勤務時間にジーパンを履いている人はいない！」ということでした。中国では区役所の事務局で働いていた時、普段ジーパンを履いても全く問題ありませんでした。私のパンツ12本のうち10本はジーパンでした。動きやすいし、シワになりにくいし、どんな色の上着にも合うからです。しかし、どうやらここでは市役所のルールとして、ジーパンが禁止らしいです。自分が外国人だから知らないふりして履き続けるのもありかなと思いましたが、郷に入っては郷に従えということで諦めました。

幸いなことに、日本に来る時にジーパンは1本しか持ってきていなかったのので、たくさんスラックスを買います。

食・「上品のカレー」の上品は一体なんだ（ぴえん🥹）

下関市に来る前に、東京で2日間のオリエンテーションに参加しました。宿泊したホテルはとても高級で、シャンデリアが煌びやかに飾られ、食事の際には執事のような人までいました。「素敵なホテルだ」と思いました。

しかし、1日目の昼食で予想外のことが起こりました。それは、ホテルで提供されたカレーのことです。カレーを食べるのは別に問題ないですが、そのカレーソースには具が一切入ってなかったのです。別皿に少しの野菜が添えられていました。私だけではなく、他の国際交流員もそのカレーに唾然としました。「高級料理を期待しているわけではないけど、これって…?!」と。

後で国際課の人に聞くと、それは「上品なカレー」で、具材はすべて細かく

煮込まれソースに溶け込んでいたそうです。しかし、お腹が全然満足していませんでした。中国のカレーなら、上品かどうかはともかく、まず具がたくさん見えるのが当たり前です。肉が多ければ多いほど、良いカレーと言われます。それで、ホテルの「上品なカレー」に実にショックでした。

これが、いわゆる、カルチャーショックということか！



住・トイレトペーパーはどこ(ぴえん🙄)

日本のトイレは清潔でスマートなことは知っていましたが、自宅のトイレで水を流すとき、後ろの蛇口から手が洗える仕組みに感心しました。こんな発想は初めてです！

トイレトペーパーについては、最初は薄さに慣れませんでした。今は平気です。しかし、買い替えようとドラッグストアで探した時、全然見つからなくて困りました。それは中国のトイレトペーパーは細長いパックが一般的なので、同じ形を探していたからです。結局スーパーで「もしかしてこの短くて太いパックがトイレトペーパー？」と気づきました。(ちなみに中国ではこの形はキッチンペーパーです。)危うくトイレトペーパーを買うこともできないダメ人間になったところでした。めでたしめでたし。



行・シニアにやさしい施設、これは中国の未来になるのか(ぴえん🙄)

日本で強く感じたのは、高齢化社会の日本はシニアが生活するためにどれだけの工夫をしてきたのか、ということです。以前はただ日本はお年寄りが多いというイメージしかありませんでした。しかし、ここに来てから高齢化社会における細やかな配慮について、中国は本当に勉強すべきだと思いました。

例えば、日本のバスには「車両が完全に停車してから立ち上がってください」と書かれていますが、中国では「次に降りるお客様はご準備ください」というアナウンスが流れます。それは事前に立って出口で待ってくださいという意味です。また、エレベーターがゆっくり作動することを示すカタツムリのマークは、写真を撮ってしまったほど気に入ってます。信号がピッポーと鳴くのも実にいいことだと思います。

中国でも高齢化が進んでいますが、こうした配慮がまだ不足しています。将来、中国でもこのような施設がたくさん増えてほしいです。



もうお気づきの方もいらっしゃると思いますが、今回は「衣食住行」という4つの面から自分がびっくりしたことを紹介しました。日本では「衣食住」という言葉がありますが、中国ではそれを「衣食住行」と言います。ここでの「行」は交通を意味します。最近は大いぶ生活に慣れてきましたが、これからも新しい発見があるでしょう。楽しみにしています。

以上、王涛がお届けする初めてのコラムでした。今後ともどうぞよろしくお願いたします！